

動物臨床医学会年次大会
＜一般講演＞
プロシーディング原稿作製規定

1. 内 容

オリジナリティのあるものに限ります。また、発表者および共同研究者とも、学会員（動臨研会員）又は、臨時会員（年次大会のみの会員）である者に限ります。

2. 使用する用紙

指定する用紙はありません。ワープロ、パソコン、又は原稿用紙に手書きでも結構です。ワープロ、パソコンを使用した場合、原稿の他に入力したワープロ、パソコンの機種を記入したフロッピーディスクなどを同封してください（フロッピーディスクなどの返却はできません。）

3. 字 数

字数は本文7,000～8,000字前後（総ページ5p内）とし、写真、図表などは字数に含まれるものとします。この場合、写真、図表は各々1枚につき約300字程度と計算してください。演題名、演者名、共同研究者名、所属機関、住所は字数に含まれませんが、共同研究者が多いときは本文の字数が若干減ります。

4. 演者名および共同研究者名

演者名は最初に書き、そのあとに共同研究者名を続けてください。また、演者名、共同研究者名には、すべてローマ字で読みを付けてください。

（例：Kazuaki TAKASHIMA Yoshihiro KUNO）。

また、各人の所属機関を表す目的でそれぞれの名前の後に、1) 2) 3) の印をつけ、改めて1) 2) 3) の項目毎に所属機関名、郵便番号、所在地の住所を書き記してください。

（例：¹⁾（財）鳥取県動物臨床医学研究所：〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋214-10）

また、校正を行うため、連絡用として電話番号、FAX番号、あればE-mailアドレスも必ず記入してください。

5. 内容の記述形式

原則として以下のように記述してください。

- ① 要約（Summary）は、必ず300字程度にまとめ、又今回よりキーワード（3語）も記載して下さい。
- ② はじめに、症例（各種検査所見、経過を含む）、考察、参考文献の順です。

③ 図・表はまとめて、原稿の最後につけ、写真は必ずプリントにして提出してください。
なお、返却はできません。

④ 制限字数（7,000～8,000字）内であれば、できる限り参考文献も記入してください。
できれば引用箇所に引用文献記号を記入してください。文献の記載方法は下記に従ってください。

◆雑誌の場合：著者名、題名、雑誌名、巻、ページ（発行年）

◆単行本の場合：著者名、書名、編集者名、版、ページ、発行所、発行地（発行年）

（例1） Fingland, R.B., Bonagura, J.D., Myer, C.W. : Pulmonic stenosis in the dog :
29 cases (1975-1984), *J Am Vet Med Assoc*, 189, 218-226 (1986)

（例2） Charies, C., and Sharron, L.M. (小野憲一郎 訳) : カルシウム代謝と副甲状腺疾患、*Vet Clin North Am* (日本語版)、7 (3) 77-104、学窓社、東京 (1975)

（例3） 長澤 裕、松本英樹、増田裕子、小口洋子、高島 一昭、山根久恵他：全身性毛包虫症のバグにおけるイベルメクチンの有効性；2 症例、*動物臨床医学*、6 (2) 21-25 (1997)

⑤ 血液一般検査および血液化学検査所見における項目名と単位は下記に従ってください。

項目名 (単位) RBC ($\times 10^6/\mu\text{l}$)、Hb (g/dl)、PCV (%), MCV (fl), MCHC (g/dl)
Ret (%), Plat ($\times 10^3/\mu\text{l}$)、TP (g/dl)、NRBC (/100WBC)、
WBC (/μl)、Band-N (/μl)、Seg-N (/μl)、Lym (/μl)、Mon (/μl)
Eos (/μl)、Bas (/μl)、TP (g/dl)、Alb (g/dl)、AST (U/l)、
ALT (U/l)、ALP (U/l)、TCho (mg/dl)、TBil (mg/dl)、
Fib (mg/dl)、BUN (mg/dl)、Cre (mg/dl)、Ca (mg/dl)、
P (mg/dl)、Na (mmol/l)、K (mmol/l)、Cl (mmol/l)

⑥ 発表は、ひとり2題までとさせていただきます。

⑦ 本文中で使用する度量行衡の単位および略語は下記に従ってください。

kg、g、mg、μg、ng、pg、m、cm、mm、μm、np、pm、dl、l、ml、μl、hr、
min、sec、Hz、℃、Kcal、pH、SID、BID、TID、IM、IV、SC

6. 発表日時

発表日時の指示は受けつけません。しかし、遠隔地からの出席で飛行機などの都合で不都合の時間帯があれば、演題申し込み時に事務局へ連絡してください（善処致します）。